東市来町湯之元の田の神

【所　在　地】日置市東市来町湯之元中央
【種　　別】県指定有形民俗文化財
【指定年月日】昭和 43 年３月 29 日

灰白質の粗い硬質岩の丸彫り。像の高さ 74cm。大きな笠状のシキをかぶり，シキのワラの編目がていねいに刻まれ，顔の表情も笑っている。袴は前から見るとくくり袴になり裏から見ると長袴が地についた形になって表裏矛盾しているのは長袴より短袴へ変る過度期の姿とも考えられる。右手にもつメシゲは笠の上面にのせてあり，左手には大きな椀をもつ。農作業姿メシゲ椀持ち型で，神舞型である点に特色がある。元文４（1739）年造立。